

## 【記者からの質問】

朝日新聞／県立大学の具体化プログラムによって、いつまでに大学の根幹が固まるのか。  
知事／11月議会で基本構想案を確定したい。その後、具体化プログラムに着手。大学関係のメンバーを構成した段階で、スケジュールを示せるかもしれない。

まだその段階ではなく、11月議会で基本構想案を確定できるよう全力を尽くしたい。

朝日新聞／立地には、何を重視して選定するのか。

知事／大学づくりはソフト事業の面が大きい。中身は、専門家のチームと相談しながら決める。このチームは、そのまま大学にも残ることになる。その点からも、十分話し合っ  
て決めたい。

日経新聞／県立大学構想が11月議会で確定した場合、令和10年4月開校に向けて、一番早いスケジュールを教えてください。

知事／現在、県立大学構想がどうなるかは、議会にかかっている。設置が決まれば、早急に専門家チームのメンバーを決め、機能やプログラム、立地場所について、精力的に動いていきたい。

日経新聞／専門家チームのメンバーは、どの専門部分を想定しているか。

知事／まだ決まっていないので、答えづらい。基本構想案の中に理文融合型とお示しした。ITや経営分野の実践的な人材を育てられるような人選を行う。

まだ具体的なものはないが、議会の議論も踏まえ、徐々に固まっていくのだと思う。

日経新聞／専門家3人と知事が主導して具体策を詰めていくのか。

知事／3人と決まったわけではない。そのような中心メンバーと共に詰めていく。検討状況は、お知らせしながら進める。

日経新聞／今回補正で計上された800万円は、具体化プログラムの諸経費か。

知事／業務委託費、様々な検討に要する経費や調査経費など。

佐賀新聞／800万円の補正予算を議会にかけるのは、県立大学設置の是非を問う議案になるのか。

知事／そうです。次の段階の具体化プログラムに進むと、先ほどの専門家を巻き込むことになる。信頼される県としての対応をとる。

佐賀新聞／専門家は、県立大学設置後もそこで働くのか。

知事／単に意見を聞くだけではない。私はそう考えている。

読売新聞／素案の段階から基本構想案になって、一番力を入れた部分はどこか。

知事／小・中・高からつながる大学に関して、様々な意見をいただいた。そこを中心に修正した。県民の皆さんの関心が高く、皆さんの意見を取り入れてつくったと自負している。

佐賀新聞／市村記念体育館の減額補正が入るのか。

知事／10月12日の開札で不落札と決まった。再度、落札をかけると増額補正になり、県民負担が増す。その中で決断するなら今だと考えた。そのため、今回は契約議案も増額補正も出せなかった。

佐賀新聞／当初出していた分を減額補正するのか。

知事／ない。一旦、凍結。予算を出すことを中断する。

佐賀新聞／県立大学は、最大200億円との見通しは変わらないか。

知事／変わらない。最大200億円と考えている。県立大学は、ソフトの事業。物価高騰等でハードが高くなっても工夫で乗り越える。県立大学は、不退転の気持ちで取り組む。

S T S／市村記念体育館の予算中断は、今の改修工事の計画も一旦中断するのか。

知事／そうです。耐震化工事も予算に入れていたので、本当はやりたかった。現在、一時的な使用はできる。直ちに使用不可となるような施設ではない。一時使用しながら推移を見守る。